

〈報告〉

中国におけるスポーツ消費の現状と課題に関する研究
 ～参加型スポーツを中心に～

廉 清華*・青山 芳之*

Research on the present condition and the subject of sport consumption in China
 ～At a center sport participated type～

Ren Ching Fa* and Yoshiyuki AOYAMA*

1. 緒 言

改革開放以来、中国の経済は急速に発展している。それとともに個人所得が増加、生活水準が高まり、フィットネス、レジャー、娯楽などの需要が伸びている。

また、経済の発展は、中国の都市化を進展させ、都市化率は1978年の17.9%から2007年には44.9%になり、年平均で0.9ポイントの上昇となっている。都市化の進展とともに、中国の都市人口は増加し、スポーツ消費人口も増加しつつある。しかしながら、中国のスポーツ産業のGDP貢献率は0.5%に足らずであり、先進諸国と比較して、まだまだ発展の可能性があると見える。

2007年現在、中国の1人当たりの年間スポーツ消費額593元であり、1992年の84元と比べ、7倍ほど増加したが(図1)、1人当たりの消費額にすると日本の40分の1以下に過ぎず、まだまだ成長が続くものと考えられる¹³⁾。

このように、中国のスポーツ消費は大きな成長を示しているものの、スポーツ産業のGDP貢献率は0.5%に足らずであり、スポーツ消費は年間総消費額の8%しか占めていない。先進諸国と比較して、まだまだスポーツ消費が十分に伸びていないのが現状

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科
 Graduate School of Health and Sports Science,
 Juntendo University

スポーツに参加しない環境的要因

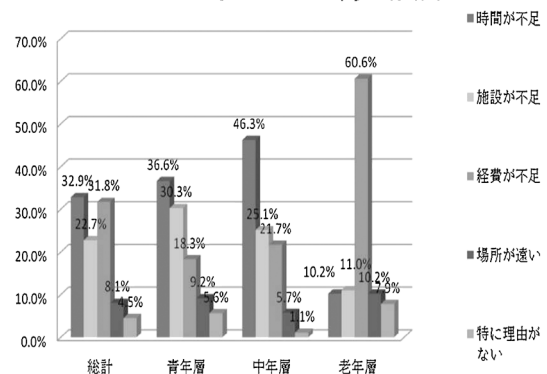


図1 スポーツに参加しない環境的要因

であり、一層の成長可能性を持っているといえる。しかしながら、中国におけるスポーツ消費に関する研究はまだ数少ないのが現状である。そこで、中国におけるスポーツ消費の現状と課題を参加型スポーツ、つまり「するスポーツ」を例として研究することとした。

2. 方 法

中澤(1999)によると、スポーツ消費行動にかかわる影響要因は個人的要因と環境的要因からなり、これらが相互に作用することで消費者の意志決定が成立すると説明されている。本研究では、先行研究をもとにして、平成19年9月から平成20年11月にかけて、中国に住む16歳以上の住民を対象としてインターネットによって、質問紙調査を行った。調査内

容は年齢, 職業, 学歴, スポーツをする時間, スポーツ種目, 行う場所, スポーツをし始めた理由, 参加動機であり, 質問項目は中国体育総局の第二次群衆体育現状調査を参考にして設定した。

3. 結果及び考察

調査した結果年齢層別に, 16歳から30歳までの青年層, 31歳から50歳までの中年層, 51歳以上の老年層の3段階に分けて, 考察した。

3.1 制約要因についてみると

環境的要因としては図1に示すとおり, 「時間が不足」が最も多くなっている。特に青中年層で強く示めされている。

次いで「経費が不足」となっている。特に老年層で強く示めされている。

それから「施設が不足」となっている。特に青中年層で強く示めされている。

また, 個人的要因としては図2が示すとおり, 「興味がない」が最も多くなっている。

次いで「運動の方法がわからない」となっている。これは特に中年層で強く示めされている。

それから「学生時代にスポーツが好きではなかった」となっている。これは特に青年層で強く示めされている。

3.2 行うようになった要因についてみると環境的要因としては

「学生時代のスポーツ習慣を延長」が最も多くなっている。特に青中年層で強く示めされている。

次いで「友達の影響」となっている。特に老年層で強く示めされている。

それから「会社のスポーツ試合に参加」となっている。特に中高年層で強く示めされている。

また, 個人的要因としては

「体力と健康の維持増進」が最も多くなっている。

次いで「気分転換, ストレス解消, 気晴らし」となっている。

4. 結論と課題

質問紙調査と文献考査と合わせた結果, 制約要因と今後への課題は以下のものである。

スポーツに参加しない個人的要因

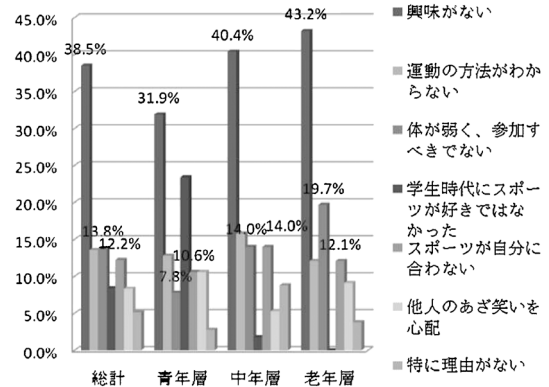


図2 スポーツに参加しない個人的要因

① 「時間が不足」に対しては, スポーツ施設の営業時間を延長し, 青中年層が学校や仕事の終了後にも利用できるようにすることが望まれる。

② 「経費が不足」に対しては, スポーツ施設の利用料金をだれでも利用できる低い料金に設定するようにすることが望まれる。

③ 「施設が不足」に対しては, 学校や会社でいろいろなスポーツができるようなスポーツの練習機械を設置するようにすることが望まれる。

④ 「興味がない」, 「運動の方法がわからない」, 「学生時代にスポーツが好きではなかった」のスポーツの効用がわからないことに対して, 学校や会社で, 定期的にスポーツ活動を行い, また, スポーツをする人が積極的に身近な人を連れて, スポーツをして, スポーツの楽しさを味わっていると同時に運動方法とスポーツの効用を教えることが望まれる。

(当論文は, 平成20年度順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の修士論文を基に作成されたものである)

参考文献

- 1) 国家体育総局体育中心情報研究部. <http://www.sportinfo.net.cn>.
- 2) 中澤 眞: スポーツ消費市場と消費行動, 杏林書院, 1999.

(平成21年3月31日 受付)
(平成21年3月31日 受理)